

# 令和5年度 第10回 豊田市保見地域会議 会議録

開催日時	令和6年1月31日(水)	開会	閉会	
		午後7時	午後8時30分	
会場	保見交流館1階 多目的ホール			
出席者	地域会議委員：12人			
	会長：湯浅 進也	副会長：田中 治		
	委員：大城 一美	大羽 啓允	加納 和茂	倉知 朋範
	篠田 賢悟	深見 浩司	船倉 茂久	水嶋 淳
	山田 貴啓	山本 昭治		
欠席者	6名( 楓原 和子 竹崎 佐恵美 福岡 博之 藤田 パウロ 森岸 直幸 吉村 迅翔 )			
傍聴者	0名			
事務局	豊田市 安田副市長 企画政策部：辻部長、企画課：野依課長、都市計画課：大光副課長 地域振興部：中川室長 猿投支所：広瀬支所長、太田副支所長、岩村(苑)主査			
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊田市民の誓い(唱和)</li> <li>2. 会長あいさつ</li> <li>3. 第9次豊田市総合計画策定に関する答申について <ul style="list-style-type: none"> <li>・副市長あいさつ</li> <li>・答申書の授受</li> <li>・副市長との意見交換会</li> </ul> </li> <li>4. 新たな提言に向けた取組について</li> <li>5. 地域会議だより3月号について</li> <li>6. わくわく事業現場訪問について</li> <li>7. 情報共有・事務連絡</li> </ol>			

## ■議事(要約)

### 2 会長あいさつ

- ・元旦に能登半島で地震が起こった。自然災害に対する対策にしっかり力を入れて備えてほしい。
- ・災害時には、住民同士の互助が生きる力になる。被害を最小限にするためにお互いに助け合う形ができたらいい。

### 3 第9次豊田市総合計画策定に関する答申

#### ■副市長あいさつ

- ・能登半島の地震が起きてから、市の消防が最初に物資輸送や救助に向かった。その後、水道局が給水車を持って向かい、ほかにも保健師が避難所支援、税金担当が罹災証明の事務に当たっている。
- ・現在までに職員を170人くらい派遣している。南海トラフ地震を想定して防災については常日頃から議論を進めて準備をしているが、派遣された防災対策課の職員が現地で福祉避難所の運営支援をするとともに、実地で学ぶ機会にもなっている。

安全・安心のまちづくりの基本である。

- ・時代の変わり目もあり、今回、第9次豊田市総合計画を作成する中で、改めて大切に守っていくもの、時代に合わせてこれからの地域づくり、まちづくりをどうしていくかを考えていくので、忌憚のない意見をお願いしたい。

#### ■答申書の授受

会長から副市長に答申書を手交

#### ■記念撮影

#### ■答申の概要説明（資料2・3頁）

#### ■意見交換

（委員）

- ・公共交通機関の話題で、今回の市長選においてもおいでんバスの無料化が出されているが、おいでんバスの路線になっているのは保見団地など地域の一部だけなので、利用しやすいように保見地域の中でもっとおいでんバスの路線を増やすような計画を作成してほしい。

（副市長）

- ・拠点を結ぶ都市の骨格となる基幹交通として、まずは鉄道、さらに基幹バス（おいでんバス）がある。基幹交通を補完する形で地域バスがあり、今回の計画で若干の変化があるかもしれないが、基本的には鉄道と基幹バスの考えは変わらない。
- ・共助の交通手段をお願いしているなか、各地域で試行的に行われ始めている。ラストワンマイルの部分は、地域のみなさんのお力を借りる必要がある。
- ・事例としては、住民共助の取組としてタクシーチケットを高齢者等に支援する自治区もある。また、足助、旭、稲武ではおたすけ合いカーを行っている。日本カーシェアリング協会と協定を結び、地区内で乗りたい人、乗せてもいい人でグループを形成し、足りない部分を住民がカバーする動きがある。タクシーやコミュニティシェアリングの部分で市は支援していく。すべての希望箇所を地域バスで回することは不合理であるので、地域の皆さんと市と運行事業者が一緒になってうまく協力しながら進めていきたいと考えている。

（委員）

- ・大畑小学校区では、生活道路のほかには国道155号が一本走っているだけで、道路沿いにお店がない。毎日の買い出しにも苦労しているのではないかと思う。買い出しにスムーズに行けるような形にしてほしい。八草エリアは市街化区域として高い税金を払ってきたので、納得がいくような整備を進めてほしい。

（副市長）

- ・八草駅周辺はえきちか居住誘導エリアになり、区画整理ではない形で整備を進めていく。商業施設へのアクセスや国道155号及びバイパスも含めて、引き続き国、県などに投げかけていくことを考えていきたい。  
商業施設については、最近の動きとしてコンビニができてAコープがつぶれるケースが他地域ではある。一定規模の商業施設の建設は難しい部分があるが、ご意見は承る。

（委員）

- ・保見地域はバスや商業施設の前に、道路の整備が進んでいない。車社会であるに

も関わらず、車もともに動けないし、交通量に比べて道路が狭く歩道もない。3～40年ほったらかしで、ここがゆったりスムーズに通行できると、少なくともまずは車社会になれる。現在は車社会としても成立していない。

(企画課)

- ・国、県の管理もあるが、川や地形的にも難しいという部分がある。昔ながらの通行ができる部分に国道が通っていて、国や県も動きが遅くなっている。籠川近くに国道バイパスをつなぐことで、保見地区の交通量が減るだろうという形で国が動いている。国等をお願いしていくしかないが、待っているだけではなくトヨタ紡織の南側の市道の部分など、県道の補完になるような整備を市としても進めていきたいと思っている。

(委員)

- ・国、県をお願いしても進まないのので、市でバイパスを作ってほしい。その方が効果的だし早い。他の地域では動いていることが、保見地域では進んでいないのでお願いしたい。
- ・大規模災害時に各地区が動かなければならないが、地域の自主防災会や消防団が非常に貧弱な現状がある。防災対策課が動いていると思うが、現状把握がどこまでできているのか。今の体制では、大災害で大井橋が使えなくなったら一部地域では孤立状態になる。能登半島地震の教訓を活かしてほしい。

(委員)

- ・この辺りは津波の心配はないが、猿投の断層が走っているので、直下型の地震が起こった際、非常に大きな被害が出るのではと思う。その際にどうするのが一番いいのかを考えてもらいたい。

(副市長)

- ・保見地域の中でも道路が一本不通になると孤立する地域があるのか。

(委員)

- ・広幡あたりでは道路が一本通れなくなると孤立してしまう。輸送できない状態がこのあたりでも起こり得る。

(副市長)

- ・防災対策で検討しているのは、災害時の要支援者をどう避難させ、避難所での生活支援がどうあるべきかという議論を行っている。
- ・豊田市は消防の設備や人員は他市に比べて非常に充実しているが、大災害時にすべて機能するかは不透明である。緊急時には行政側だけではなく、孤立するような危険性があるのであれば、地域でもどうすべきか考えてほしい。

(委員)

- ・広幡は川沿いのため、雨でのがけ崩れが多い。そういったことに対する市の対応が山間地域では手厚いが、保見地区を含む中山間地域まで手が届いていない。

(副市長)

- ・基本的には職員も住民のみなさんも、まずは自助で自分の命を守ることが大事である。発災後すぐに回りを見て頭を守るとか、転倒防止の対策など自分のできることをまずは行ってほしい。

#### 4 新たな提言に向けた取組

提言書案の背景・課題について、2グループに分かれて協議を実施し、それぞれのグループで協議した内容を発表

#### グループ1

- ・背景のデータが平成27年度時点のものなど古いので最新の情報にする。豊田市全体ではなく保見地区のデータがあるものは掲載してほしい。
- ・健康寿命の変遷のデータもできれば保見地区のものがあるとよい。豊田市のものでもいい。
- ・健康づくりが進んでいない要因はもう少し考える必要がある。
- ・健康寿命の目標をもう少し記載した方がよい。

#### グループ2

- ・健康寿命の平均寿命の差が現実とかけ離れているのでは。データの取り方を変えるべきでは。
- ・周知がされていない部分のわかりにくい。健診を受診しにくい。何らかの手助けができるといい。
- ・健康保険証をほとんどの人が持っていて周知がされないというのは違うのでは。
- ・健康に対する関心を持ってもらうにはどうやって行うかを考えていく必要がある。

※グループ協議で出た意見を基に提言書を修正していく。

### 5 地域会議だより3月号

- ・保見地域会議だより3月号の案について説明  
⇒意見等なし、承認
- ・資料5頁はごみ拾いイベントチラシではなく地域会議だよりのポルトガル語訳を掲載

### 6 わくわく事業の現場訪問

- ・「保見ヶ丘長少年野球」の活動について、訪問した委員から報告

### 7 情報共有・事務連絡

- ・情報共有なし

(次回の予定)

日時：令和6年2月28日(水) 午後7時から

場所：保見交流館1階 多目的ホール

内容：新たな提言に向けた取組について